



(75) 上海万博機に3G新サービス展開

野村综研(上海)咨询有限公司

第3世代(3G)携帯電話サービスで、中国の独自規格であるTD-SCDMAの商用実験が2008年4月1日から、北京・上海・広州などの8都市で実施されてきた。1年程度をかけたテストと事前準備を通じ、ようやく技術面、サービス面とも整ってきた。今年1月には通信事業者3社に3Gの経営免許が与えられ、中国本土で本格的にサービスを開始する準備ができ上がった。

マーケットの開拓を狙う通信各社は3G携帯電話向けの新サービスを一刻も早く開発しようと躍起である。中でも携帯電話を利用した決済やチケットサービスが相次いで開発され、実験されている。これらが定着すれば、日常生活が非常に便利になり、消費スタイルも画期的な進歩を遂げるだろう。

◇モバイルチケット、上海万博にお目見え

10年の上海万博では、携帯電話で万博会場に入場できるサービスが実現される。これは「モバイルチケット」と呼ばれ、実用化テストが既に実施されている。同年5月の開幕以降に実用化が正式に始まり、閉幕後は全国の至る所で使用できる予定である。

携帯電話に差し込まれている通常の契約者識別モジュール(SIM)カードを近距離通信(NFC)機能を持ったSIMカードに入れ替えるだけで、携帯電話に入場券をダウンロードして入手、利用できるようになる。入場券付きのSIMカードに入れ替えてもよい。ゲートに設置された読み取り装置が携帯電話の中の入場券情報を識別し入場できるようになる。電子タグ(RFID)とSIMカードを統合した技術で、携帯電話を買い替える必要がなく、SIMカードの入れ替えだけで実現できる。

また万博期間中は会場内のスーパーや売店などでの支払いで、携帯電話を財布の代わりとして使う機能も提供される。中国移動上海支社の責任者によると、携帯電話での決済は利用者の銀行口座と携帯電話番号をつなぐことで実現される。これにもNFC機能の付いたSIMカードに入れ替える必要がある。

◇駐車料金支払いも携帯で

広東省は5月1日から、駐車料金ICカード管理システムを東莞市の清溪镇と常平鎮でテストしてきた。さらに駐車スペース2100カ所以上で従来の人による料金収納を廃止して各スペースに番号を割り振り、6月1日から同システムを試行することになった。

ドライバーは特定のICカードを事前に購入する必要がある。駐車するときにショートメッセージ(SMS)を携帯電話から送ることで、当該スペースでの料金計算が始まる。車を出すときにもう一度SMSを送ると駐車終了が自動的に伝えられ、ICカードから料金が引き落とされる仕組みである。このようにSMSを2度送るだけで支払いが完了するモデルはまだテスト段階にあり、テストが無事終われば大規模に展開される予定である。

◇マーケット開拓本格化

モバイルチケットやモバイル決済などの新たなサービスが上海万博で成功すれば、ほかの領域にも迅速に応用されるようになる。中国の携帯電話サービスはこれまで通話とメールが主で、付加価値サービスはあまり利用されてこなかった。付加価値と利便性のより高いサービスを今後提供できれば、半数近くのユーザーが5年以内に3Gに切り替えると見込まれている。

(コンサルタント 黎慧珏)